

提出日： 令和 3 年 3 月 15 日  
所 属： 生命・環境科学部 環境科学科  
氏 名： 川上 泰 職位： 教授  
役 職： 生命・環境科学部長 学長補佐 (自己点検・評価担当)

## I ティーチング・ポートフォリオ

### 1. 教育の責任 (教育活動の範囲)

役職：私は学部長として、学部運営がスムーズに進むように学科長、副学科長と度々打ち合わせを行いながら連携を深めている。重点施策事業の充実と共に受験生に対する広報活動を強化した。新たな教育研究施設として島根県美郷町に麻布大学フィールドワークセンターを設置した。

教育：臨床検査技術学科、食品生命科学科、環境科学科の授業を担当しているが、自身の責任として、学生を社会に送り出す前に、しっかりと知識や技術を習得させることを目標として、講義・実習を行っている。また、これまで 30 年以上の大学教員としての経験を基に、今学生が何を求めているかを素早く察知し、これに迅速に対応することを目指している。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
衛生動物学・同実習	環境科学科	必修	1 年次	80
リサーチローテーション	環境科学科	必修	2 年次	80
科学技術英語	環境科学科	必修	3 年次	8
医動物学・同実習	臨床検査技術学科	必修	2 年次	80
食品寄生虫学	食品生命科学科	選択	4 年次	80
衛生動物学	食品生命科学科	必修	3 年次	80

### 2. 教育の理念 (育てたい学生像, あり方, 信念)

私は、社会に出て必要となるコミュニケーション能力を身につけてもらいたいと考えている。現在担当している衛生動物学分野には数多くの卒業生が勤務しており、この繋がりを持続することで、多くの学生の就職先が確保でき、麻布大学が1つの大きなブランドとして社会的に認知されるものと考えている。麻布大学と企業の関係の中で、会社として欲しい人材を知ることができ、そこに専門知識や技術はもとより、コミュニケーション能力を持った学生を送り込んでいきたいと考えている。また、学生の気持ちを知ることが大切になっている。今年度はコロナ禍の中で、非常に難しい面があったが、実習等、学生と直接話ができる機会を多くもち、今何を知りたいのか、今何をやりたいのか、将来はどのようなことを行いたいのかをしっかりと理解した上で、充実した授業・実習にすることを信念としている。

### 3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

いつの時代にも流行やトレンドがあると思うが、昨今の我々を取り巻く環境も ICT を中心に大きく変化していると思われる。このような私どもとは大きく異なる環境で育った学生の様子を観察し、さらにできるだけ学生と会話をすることで、現代の学生の気持ちを理解できるように努力している。まずは学生の話に耳を傾けることが重要であると思う。小さな努力を惜しまず、新しいものにも臆すること無くトライしていきたいと考えている。

#### アクティブラーニングについての取組

- ① 授業中のグループワーク、ディスカッション

#### ICT の教育への活用

- ① Power Point を活用したプレゼンテーション  
② 学理を活用した動画閲覧、課題提出、試験のフィードバック

### 4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

① 教育（授業，実習）の創意工夫（B）

講義だけでなく、映像の視聴、学生同士のディスカッション、レポートの作成など、多彩な方法を組み込んで授業を行なった。

② 学生の理解度の把握（A）

毎回のレポートおよび学理のテストをもとに理解度を把握した。

③ 学生の自学自習を促すための工夫（C）

講義の内容に興味をもってもらえるように努力しているが、自学自習をするまでには至っていない。

④ 学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A）

質問は随時受け付けている。

⑤ 双方向授業への工夫（B）

オンライン授業になったことを利用して質問がしやすい環境を作っているが、双方向にというまでには至っていない。

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

⑥ 国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

国家試験対策の資料を自ら作成し授業を行った。

### 5. 学生授業評価

① 授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

特に大きな指摘はなかったが、分かりやすい授業にすることを引き続き行っている。

② ①の結果はどうでしたか。

特に問題は起きていない。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

引き続き努力を惜しまず頑張りたい。

6. 学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

目下の課題であるが、オンライン授業を使う中で、そのヒントとなる場面があった。学理を利用した授業の改善に積極的に取り組みたいと思っている。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

こちらに関しては、現在は該当することを行っていない。授業評価のコメントの中に、時々参考になることもあるので利用していきたい。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）

やむを得ない所用がない限り、開催されるすべての FD 研究会に参加し、授業や教育活動を見直す機会としている。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

- (1) 衛生動物学分野や寄生虫学分野での最新の情報を反映した質の高い授業を実施する。
- (2) ペストコントロール関連企業との太いパイプを維持していくとともに、この業界で役に立つ人材を育てる。
- (3) 優れたコミュニケーション能力を有する学生を育てる。

9. 添付資料（根拠資料）

- ・ 学理における授業評価、課題・テストへの回答結果、最終レポート結果、アンケート等
- ・ シラバス（授業内容等）
- ・ キャンパスプラン（履修状況・成績評価）
- ・ 講義資料（パワーポイント・レジュメ等）